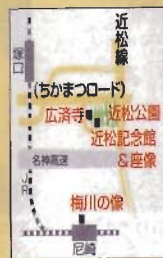


上方の売れっ子作家が眠る「近松の町」

尼崎

「阪神工業地帯の中心」というのが、小学校の社会科で教わった尼崎。この町と縁の深い歴史上の人物に、江戸時代の上方芸能を支えた近松門左衛門がいる。近代的な印象が強い町で、近松チックな風景を探した。



↑ 荒廃した寺の再興に、ちかまっさんも奇与した
→ 近松記念館の中村さん



丁寧な説明、ありがとう♡



江 戸中期の浄瑠璃・歌舞伎脚本家、近松門左衛門(1653~1724)。市内の広済寺に墓所がある尼崎市は、近松のまち作りを進めている。
「のんびりできて、きれいな写真も撮れると思いますよ」。市の、その名も「ちかまつ・文化振興課」が一番に勧めてくれたのは、JR塚口駅から歩いて10分ほどの「近松公園」。日本庭園風の公園内には、なるほど、居眠りおじちゃんや子ども連れママなど、あちこちに「のんびり」の人々がいた。周辺一帯も趣のある雰囲気整備されていて、近松ムードが漂っていた。

ちかまっさんの記念館？ あれや。池のほとりでのんびりしていたおじさんに場所を聞き、園内の一角にある「近松記念館」へ。愛用品や過去帳などゆかりの品々が「東洋のシェイクスピア」の人生を物語る。「ちかまっさんがこ

↑ 四季折々の景色が楽しめる近松公園
★ 近松座像。脂の乗り切った50歳の姿

こに来たんは60歳ぐらいから」と管理人の中村多津枝さん。「曾根崎心中」「心中天網島」など大阪を舞台にした作品が多いが、「筆を持ったのは広済寺の仕事部屋。大阪よりも静かやゆうてここに来たそうです」。古の尼崎はのどかな風景が広がっていたのだらう。落ち着いた環境を求める物書きの気持ち、分かるなあ。

「近松の墓」をお参りに、広済寺を訪れた。国

マンホールのふたにはシンボルマークが



まげの町の合体!

ちかまっさんに癒されたよ。!



「近松茶」は尼崎市のお土産。山田茶園(☎06-6499-6640)にて



↑ 町のあちこちに「ちかまっさん」
← 近松線沿いのモニュメント。近松の紋所☉をアレンジ